

令和 5 年 4 月 27 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K01030

研究課題名（和文）初期ソコト・カリフ国における知と暴力：ジハードと奴隷制を支える思想の研究

研究課題名（英文）Knowledge and Violence in the Early Sokoto Caliphate: Thoughts on Jihad and Slavery

研究代表者

苅谷 康太 (Kariya, Kota)

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：70634583

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、19世紀初頭に軍事ジハードを通じて成立した西アフリカのイスラーム国家、ソコト・カリフ国において、イスラーム知識人のウスマーン・ブン・フーディーを頂点とした支配層が、同国の成立に繋がったジハードと、同国の政治・経済・社会を支えた奴隷制という2つの「暴力」を正当化するために、どのような先達の見解に依拠し、またそうした見解を利用して如何なる論理を構築したのかを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来の研究は、ソコト・カリフ国の成立と展開の要となったジハード及び奴隷制という2つの「暴力」の思想的・知的基盤が如何なるものであったのかを十分に検討してこなかった。これに対して本研究は、ウスマーンのアラビア語著作群の分析を礎に、この思想的・知的基盤を明らかにした点で大きな学術的意義を有しており、更に、西アフリカの知識人が西アジアや北アフリカといった他地域の先達の知を巧みに再編して自らの主張の正当化に利用していた様相を具体的に明らかにしたことで、西アフリカから西アジアに至る広域イスラーム圏の知的影響関係の在り方に関する新たな批判的知見の獲得に繋がった。

研究成果の概要（英文）：In the early nineteenth century, a Fulani Muslim intellectual, 'Uthman b. Fudi (d. 1817) launched a series of jihads in West Africa and established a large state based on Islamic law, commonly referred to as the Sokoto Caliphate. In this research project, principally based on the examination of his Arabic writings, I clarified how he utilized preceding scholars' views in order to construct a logic to authorize two kinds of "violence"--jihad and slavery--which constituted an essential foundation of the Caliphate.

研究分野：西アフリカ・イスラーム史

キーワード：イスラーム 西アフリカ 初期ソコト・カリフ国 ジハード 奴隷制

1. 研究開始当初の背景

1804年、フルベのイスラーム知識人であるウスマーン・ブン・フーディー（‘Uthmān b. Fūdī, 1817年歿）は、ハウサランド（今日のナイジェリア北部及びニジェール南部に相当する地域）の既存のハウサ人諸国家に対する軍事ジハードを開始すると、1810年頃までにハウサランド及びその周辺を制圧し、イスラーム法を統治規範の一つとするソコト・カリフ国の基礎を築いた。同国は、最高指導者のカリフを頂点とする強固な統治体制を構築し、イギリスの侵略で実質的な統治権を失う1903年まで、西アフリカ東部の広域を支配し続けた。同国に関しては、1960年代以降、主に欧米や西アフリカの研究者が、その政治・経済・社会に関する多様な主題について数多くの研究を発表してきたが、そうした中でも特に繰り返し議論がなされてきたのが、ジハードと奴隷制の問題である。

18-19世紀の西アフリカは、各地でジハードが頻発した時代であったが、そうした一連のジハードの中でも、ウスマーンの子孫のジハードはとりわけその規模が大きく、強大な国家建設にまで至った。またソコト・カリフ国は、国家の基礎が築かれた後も恒常的にジハードを遂行することで、支配領域の拡大や防衛、国内で頻発した紛争や叛乱の平定、奴隷を含む戦利品の獲得を実現していた。

更に、ソコト・カリフ国は、ジハードで成立した西アフリカの他の諸国家と同様、奴隷人口の割合が極めて高い国として知られており、1900年頃のソコト・カリフ国の全人口に占める奴隷の割合について最低でも25%、最大で50%に達すると推定する先行研究もある（Paul E. Lovejoy, *Jihad in West Africa during the Age of Revolutions*, Athens: Ohio University Press, 2016, p. 106）。この膨大な数の奴隷は、売買の対象とされるだけでなく、家事、諸産業、軍事等の多様な領域に投入されたため、ソコト・カリフ国の政治・経済・社会は、奴隷制に深く依存する構造になっていた。

しかし、これまでの研究では、こうしたソコト・カリフ国の成立と展開において極めて重要な要素であったジハードと奴隷制が如何なる思想や論理に支えられて合法化されていたのかという問いは十分に検討されてこなかった。この問いを学術的な背景とし、本研究では、ウスマーンらソコト・カリフ国の支配層がどのような先達の思想や見解を受容・咀嚼・吸収し、それをもとに如何なる論理を構築することで、自らの展開したジハードと自国の政治・経済・社会を支えた奴隷制という2つの形式の「暴力」を正当化したのかという問題の解明に挑んだ。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ジハードが始まった1804年からウスマーンの後継者であるムハンマド・ベッロ（Muhammad Bello, 1837年歿）の統治が終わる1837年までの初期ソコト・カリフ国の指導者層が著したアラビア語や現地諸語の著作群を主たる分析対象とし、彼らがどのような先達の見解を選択的に受容・咀嚼・吸収し、それに基づいて同国の成立・展開の礎となったジハードと奴隷制という2つの「暴力」を正当化するために如何なる論理を構築したのかを包括的に明らかにすることである。

3. 研究の方法

本研究では、初期ソコト・カリフ国の支配層が著したアラビア語及び現地諸語の著作群の分析を礎に、同国の「ジハードを支えた思想」と「奴隷制を支えた思想」が如何なるものであったのかを具体的に明らかにする。分析対象となる著作を渉猟するために、ナイジェリアの図書館や研究機関における文献（写本及び刊本）調査を実施する。

4. 研究成果

本研究では、雑誌や図書に掲載された論考7本を始め、当初想定していた以上の数の研究成果を発表することができた。それらのうち以下の5本は、査読付きの論考である。まず、アフリカ・イスラーム研究の分野における国際的なリーディング・ジャーナルの一つである *Islamic Africa* には、ジハードと奴隷制に関連するウスマーンの思想を論じた2本の論考が採択された（Kota Kariya, “Reconsidering the Intellectual Relationship between Muḥammad al-Maghīlī and ‘Uthmān b. Fūdī: A Comparative Examination of *Ajwiba* and *Sirāj al-Ikhwān*,” *Islamic Africa*, vol. 13, issue 2 (2022), pp. 251-282; Kota Kariya, “Free Choice Theory and the Justification of Enslavement in the Early Sokoto Caliphate,” *Islamic Africa*, vol. 11, issue 1 (2020), pp. 1-41.）。そして、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所が発行する『アジア・アフリカ言語文化研究』(*Journal of Asian and African Studies*) には、ソコト・カリフ国関連のアラビア語著作の校訂に解説を付した論考を3本発表することができた(Kota Kariya, “A Treatise on Polygamy and Concubinage in the Early Sokoto

Caliphate: Muḥammad Bello 's *al-Qawl al-Man'ūt*," *Journal of Asian and African Studies*, no. 105 (2023), pp. 31-45; Kota Kariya, "A Treatise on *Zinā* in the Early Sokoto Caliphate: Muḥammad Bello 's *al-Qawl al-Marham*," *Journal of Asian and African Studies*, no. 101 (2021), pp. 5-17; Kota Kariya, "A Letter from Muḥammad al-Amīn al-Kānemī to a Fulani Muslim Community in Bornu," *Journal of Asian and African Studies*, no. 99 (2020), pp. 77-87)。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Kota KARIYA	4. 巻 105
2. 論文標題 A Treatise on Polygamy and Concubinage in the Early Sokoto Caliphate: Muhammad Bello's al-Qawl al-Man'ut,	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Asian and African Studies	6. 最初と最後の頁 31-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.57275/ilcaajaas.2023.105_31	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Kota KARIYA	4. 巻 13
2. 論文標題 Reconsidering the Intellectual Relationship between Muhammad al-Maghili and 'Uthman b. Fudi: A Comparative Examination of Ajwiba and Siraj al-Ikhwan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Islamic Africa	6. 最初と最後の頁 251-282
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1163/21540993-01302004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Kota KARIYA	4. 巻 11
2. 論文標題 Free Choice Theory and the Justification of Enslavement in the Early Sokoto Caliphate	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Islamic Africa	6. 最初と最後の頁 1-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1163/21540993-01101001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Kota KARIYA	4. 巻 101
2. 論文標題 A Treatise on Zina in the Early Sokoto Caliphate: Muhammad Bello's al-Qawl al-Marham	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Asian and African Studies	6. 最初と最後の頁 5-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15026/100086	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kota KARIYA	4. 巻 99
2. 論文標題 A Letter from Muhammad al-Amin al-Kanemi to a Fulani Muslim Community in Bornu	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Asian and African Studies	6. 最初と最後の頁 77-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 苅谷康太
2. 発表標題 知識と「暴力」：初期ソコト・カリフ国におけるジハードと奴隷制
3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所AA研フォーラム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 苅谷康太
2. 発表標題 初期ソコト・カリフ国における医学と奴隷狩り
3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所AA研フォーラム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 苅谷康太
2. 発表標題 ソコト・カリフ国のカリフについて
3. 学会等名 「イスラーム国家の王権と正統性」研究会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 吉澤誠一郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 378
3. 書名 論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い158（報告者担当部分：168-169頁）	

1. 著者名 荒川 正晴、大黒 俊二、小川 幸司、木畑 洋一、富谷 至、中野 聡、永原 陽子、林 佳世子、弘末 雅士、 安村 直己、吉澤 誠一郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 316
3. 書名 岩波講座 世界歴史 第18巻 アフリカ諸地域 ~20世紀（報告者担当部分：223-239頁）	

1. 著者名 永原 陽子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 384
3. 書名 人々がつなぐ世界史（報告者担当部分：87-112頁）	

1. 著者名 イスラーム文化事典編集委員会	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 748
3. 書名 イスラーム文化事典（報告者担当部分：編集委員；302-303, 600-601頁）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------